



2022.2.25  
第177号

## 《良・悪・禍・福》



会津教育事務所域内三支会連絡会  
会長 秋月 淳子

以前に聞いた話ですが、NHKの天気予報では、「良い」天気・「悪い」天気という表現はしないそうです。普段当たり前に「良い悪い」を使ってきた私からすると、とても意外な印象を受けました。視聴者に分かりやすく天気の様子を伝える上で、「良」「悪」の表現はむしろ使うべきことのようにも思ったからです。

理由について調べてみると「人によって受け止め方が違うから」とのことでした。そう言われると確かにその通りです。例えば雨は悪い天気の代名詞ですが、運動会当日朝の土砂降りを、運動が苦手な子どもはどう感じるでしょう。

運動が得意な子どもとは、同じ雨でも全く見え方が違うはず。『生憎（あいにく）の雨・恵みの雨、自我の思いが一つの雨を二つに分ける』という言葉があり、すが、私たちは、雨が降っているという事実、自分の価値基準を正当化し、良・悪の評価を当たり前のように付け足してしまいます。自分に都合のいい雨を「恵みの雨」とし、都合の悪い雨を「生憎の雨」とするのです。

しかも、これは、天気に限ったことではなく、人間に対しても同じことです。落語家の立川談志さんは生前『良い子とは、大人にとって都合のいい子』と語りました。

が、耳の痛い話です。我が子でさえも、自分の思い通りにしたいという願望に振り回され、自分の価値観を押しつけようとしています。自分に都合のいいこと・良い人を集めて、悪いこと・悪い人を排除しようとする習慣を持っている私たちですが、一方で、困難な出来事や、苦手な人との出会いによって、結果的に成長することができたという経験をお持ちの方は意外と多いのではないのでしょうか。

今、社会はコロナ「禍」の渦中にあります。年が改まっても次々と難問が生まれていきます。本来「未定」であるはずの「予定」を「決定」と決めつけていた自分勝手があぶり出され、改めて、思い通りにいかないのが私たちの人生であることを痛感させられます。

しかし、『禍福はあざなえる縄のごとし』です。むしろこの体験から何を学んでいくのかという視点を大切にしたいものです。十年後の教科書に「新型コロナウイルス」のことは、どのように記載されるのでしょうか。

**発行**  
福島県市町村教育委員会  
会津支部  
北会津支部  
北会津支部

**編集**  
福島県教育庁  
会津教育事務所

**編集協力**  
小・中学校長会

## 令和3年度 各種受賞紹介 (敬称略)

- 文部科学大臣表彰**
  - 地方教育行政功労者 長谷川恵一
  - 社会教育功労者 喜多市 佐藤 一男 喜多市 高橋 明子
  - 学校保健及び学校安全表彰 湯川村立勝常小学校 学校歯科医 小久保俊一
  - 「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る表彰 家庭教育相談室「こころのオアシス」(西会津町)
  - 優秀教職員 喜多市立第一小学校 養護教諭 長谷川めぐみ 喜多市立高郷小学校 教諭 豊野 創平
  - キャリア教育優良学校 会津若松市立第二中学校
- 県教育委員会表彰**
  - 学校教育功労者 会津若松市立謹教小学校 校長 石本 浩一 猪苗代町立猪苗代小学校 校長 秦 尚志
  - 文化財保護関係功労者 三島町文化財保護審議会 会長 角田 伊一
  - へき地教育功績顕著な団体 猪苗代町立東中学校
  - 優秀教職員 会津若松市立謹教小学校 教諭 遠藤奈緒美 会津若松市立第一中学校 養護教諭 渡部由布香
- 福島県教職員研究論文**
  - 特選 喜多市立第一中学校(代表) 校長 板橋 和典
  - 入選 福島県立猪苗代高等学校 教諭 今川 吉晃
- 県学校関係緑化コンクール**
  - 《学校林等活動の部》
    - 知事賞・福島民報社社長賞 会津若松市立湊小学校
    - 教育長賞 会津若松市立川南小学校
  - 《学校環境緑化の部》
    - 知事賞・福島民友新聞社社長賞 会津若松市立大戸小学校
    - 教育長賞 会津若松市立湊小学校
    - 関東森林管理局長賞 会津若松市立川南小学校
- 県学校歯科保健優良校表彰**
  - 最優秀賞 喜多市立第一小学校
  - 優秀賞 磐梯町立磐梯第一小学校 喜多市立上三宮小学校 湯川村立笈川小学校 湯川村立勝常小学校
- 努力賞** 会津若松市立河東学園(前期課程) 磐梯町立磐梯中学校
- 奨励賞** 北塩原村立裏磐梯小学校
- 優秀活動奨励賞** 磐梯町立磐梯第二小学校
- 県学校保健会表彰(学校保健功労者)** 会津若松市一箕中学校 学校歯科医 渡部 好造 喜多市立豊川小学校 学校歯科医 佐藤 滋 喜多市立加納小学校 学校歯科医 山田 敦
- 県学校給食会優良団体・功績者表彰**
  - 優良団体 会津若松市立一箕小学校 西会津町給食センター
- ふくしまっ子ごはんコンテスト(学校賞)** 会津若松市立一箕小学校 喜多市立上三宮小学校 柳津町立西山小学校 会津若松市立大戸中学校 会津美里町立新鶴中学校

(令和4年2月22日現在)

## 地域を担う人材の育成



会津美里町教育委員会

教育長

歌 川 哲 由

就任以来8カ月が過ぎようとしていますが、初めて市町村の教育行政を担ってみて、これまでの経験値だけでは対応しきれない状況に数多く出会い、私自身、新たな学びの連続です。

さて、地方自治体にとって人口減少対策は最重要課題であり、地方創生が叫ばれ続ける中、有効な手立てがないまま、状況は悪化の一途をたどっています。初めて校長になった頃から、地域の担い手育成など課題感はありましたが、何ら対応してこなかったことへの反省の念も持ち続けていました。幸い教職仕上げの2年間は、校長としてコミュニティ・スクールの立ち上げに携わることができ、反省を生かすための端緒に立ったような気がし

ました。

根本的な解決策とはいかないまでも、地域学校協働活動を活性化させることは有効であり、コミュニティ・スクールを足掛かりに、地域とともにある学校づくりを推進することは、故郷の良さを享受させながら、故郷を愛する心を醸成する教育を進め、故郷に貢献しようとする人材の育成に貢献できるものと考えます。次年度は町内全校をコミュニティ・スクールに指定し、地域とともにある学校づくりに取り組んでいきます。

また、地域を担う人材には、社会人としての教養や高度な教育を受けるための学力も必要であり、学力向上のためICT端末の活用を始め様々な対策を講じていきますが、付焼刃的な感覚も否めません。当町では、教育委員会が保育から学校教育まで幅広く担当していますが、幼児教育の質の向上と小学校教育との円滑な接続を含めて幼小中連携教育を推進し、幼児期から一貫した非認知能力の育成や読解力の向上など、「学びの基礎力」を長い目で見ながらじっくり育成し、将来の学力向上に結実させていきたいと考えています。

## 我がまちからの情報発信

会津若松市教育委員会

## 文化・芸術「本物との出会い」

本市教育委員会は子どもたちの人材育成事業として「あいづっこ人材育成プロジェクト」を立ち上げ、小学生対象事業では、6年生全員が、歴史資料センター「まなべこ」を訪問し、専門家による会津の歴史講話を聴き、「院内御廟」を見学することで郷土の歴史への関心を高める機会を設けている。中学生対象事業では、学校を会場として映画の上映会を開催し、併せてその映画製作に携った映画監督や俳優等を招いた講演を行っている。心に響く上質の映画の鑑賞、スクリーンで演じた名優たちからの直接の講話は、生徒たちの心の財産として植え付けられている。

また、市民の芸術鑑賞の機会を創出することを目的とした「あいづまちなかアートプロジェクト」事業は、二つのカテゴリーを持ち、一つが「会津・漆の芸術祭」、もう一つが「まちなかピナコテカ（絵画展）」である。会津・福島県にゆかりのある若手作家の作品展示、中学生美術部と若手作家の共同制作（今年度は会津稽古堂ガラスアート）、その他、様々な作品を市内の店舗・施設等に分散して展示し、見学者が、本市の「まちなか」を

周遊しながら数多くの作品を楽しんでもらえる企画となっている。さらに、昨年度から中学生による黒板アートコンテストを開催した。これは会津学鳳高校美術部の作品が、一昨年度の日学・黒板アート甲子園で全国1位に選ばれたことから企画し、今年度は「黒板シートでアートコンテスト」に形を変え、市内中学校から6校、18チームの参加があった。会津学鳳高校美術部の生徒たちが入賞作品の選考等を行い、先輩が後輩に文化の芽を繋いでいく「新しくて身近な芸術文化」へのチャレンジは、次代を担う子どもたちの感性を大いに高めていくことを強く認識する事業となった。



黒板シートでアートコンテスト出品作品



## 算数・数学科における授業づくりのポイントとは?

今年度の要請訪問等では、算数・数学科で「よい授業」がたくさんありました。それらの「よい授業」に共通した「授業づくりのポイント」は右の6つでした。

それらの中から、シンプルでしっかりとポイントを踏まえた算数科の実践を紹介します。

- 1 指導のねらいがはっきりしている。
- 2 学習課題が子どものものになっている。
- 3 学習内容や活動の見通しを持たせている。
- 4 児童生徒への支援が適切である。
- 5 児童生徒の学ぶ意欲を高めている。
- 6 学習評価が適切である。



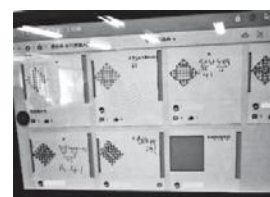
### 小学校4年「計算のやくそくを調べよう」

#### < 本時のねらい >

ドットの並び方やまとまりに着目し、ドットの数の求め方を図や式を用いて考え、説明することができる。

#### < ねらいに迫るための教師の工夫 >

- ① 数えることが「面倒!」と感じさせることを通して、簡単に求める必要性や必然性を持たせる。
- ② 1つの例として、いくつかのまとまりについて図と式を提示し、「何を学ぶのか」を明確に伝え、活動（解決）の見通しを持たせる。
- ③ 「ドット図→式」のワンパターンではなく、「式→ドット図」を他の児童に考えさせることで、演繹と図式化の両方を意識させる。



#### < この授業のポイント >

- 授業展開がシンプル。ねらいと学習課題がはっきりしている。
- 一人一人に適切な支援を行い、見通しを持たせた。
- 主体的・対話的に子どもたちが試行錯誤しながら、ねらいに迫る学習が行われている。タブレットに一人一人の学習過程が記録されている。

5×5になるには?

## 本との「出会い」が広がる～ビブリオバトル～

本県では子どもの読書活動の現状と課題を踏まえ、第四次「福島県子ども読書活動推進計画」を策定し、生涯にわたる望ましい読書習慣の形成を目指しています。

さらに、「ふくしまの未来をひらく読書の力プロジェクト」事業では、特に中・高校生の不読率改善や情報発信力の向上のため「ビブリオバトル」を開催しています。これは発表者（パトラー）がお気に入りの本を紹介し、参加者が投票で読みたいと思った「チャンプ本」を選ぶというゲームで、「知的書評合戦」ともいわれています。

今年度のビブリオバトルは、10月に高校生の会津地区予選会（会津美里町：じげんホール）、11月に中・高校生の福島県大会（福島市：とうほう・みんなの文化センター）を開催しました。福島県大会では、西会津中学校の折笠遥南さん、会津農林高校の尾崎海斗さんがそれぞれ優勝し、全国大会へ出場権を得ました。

会津域内でも市町村教育委員会が主催したり、校内で実施したりと広まってきています。

会津農林高校は、2年前から「全校ビブリオバトル」を実施しています。



県大会優勝者

実施前、担当の先生は「読書が苦手な生徒や、読書は好きでも人前で話すのが苦手な生徒が少なからずいるかもしれない」と感じていたそうです。しかし、当初の心配は杞憂に終わりました。好きな本が紹介できるということで、生徒は生き生きと活動しました。頬を紅潮させながらも一生懸命に発表し、それに応えるように観戦者は傾きながら聞き、投票していたそうです。

アンケート調査によると75.3%の生徒がこの学習は有意義だったと答えています。「本を読み返すことで新たな面を読み取ることができた」「本の面白さを知ることができた」「自分の伝えたいことを話すことで自信を持つことができた」等の感想が寄せられました。

ビブリオバトルを始め多様な読書活動を通して、たくさんの素敵な本、普段読まないジャンルの本などに会うことができます。今後も学校、家庭、地域で連携・協働しながら、子どもの読書への興味・関心を高める取組を充実させていきたいと思っています。



真剣なまなざしの  
全校ビブリオバトル

## 各学校の特色ある取組紹介

### 教科担任制を生かした学力向上の取組

喜多方市立塩川小学校

本校は、昨年度から2年間「ふくしまの学校キラリ学力向上プロジェクト」の教科担任制実践校として学力向上に取り組み、教科担任が4～6年生の理科を担当しています。教科担任が担当することで、内容の系統性を踏まえた指導が可能となり、実験等の準備もきめ細かに行え、授業内容が充実し、理科への興味・関心を示す児童が増えてきていると感じます。また、単元テストの知識・技能の観点では、全ての学級で期待値を上回るなど、学習内容の定着が図られてきています。

教科担任が2組の理科を行っている時間に、1組の算数を2人の担任が指導を行う(※1)他に、数学免許を有する担任外教員の活用を図る取組も行っています。具体的に

※1 5年重点単元で実施			※2 算数習熟度別学習		
学級	教科	指導者	コース・型	指導者	
1組	算数	1組・2組担任によるT.T指導	磐梯山コース(基礎理解型)	1組担任	
2組	理科	理科教科担任	磐梯山コース(練習型)	2組・3組担任によるT.T指導	
※3 6年重点単元で実施			日備川コース(発展型)		
学級	教科	指導者	指導者	指導者	
1組	算数	1組・2組担任によるT.T指導	日備川コース	数学免許所有教員	
2組	算数	数学免許所有教員	13年生の重点単元で実施		

は、算数科の重点単元において、1組と2組の算数を同一時間に設定し、3コースに分けて習熟度別学習を行ったり(※2)、学年担任2名が1組でT・T指導し、担任外が2組の指導を行ったりする(※3)など、指導形態をいろいろと工夫をしながら学力向上に努めています。

教科担任が入ることで学級担任の負担が軽減し、教材研究や互見授業もしやすくなりました。また、教員相互の協力体制が整い、児童に寄り添ったきめ細やかな指導が可能になりました。さらに、担任と教科担任や担任外教員が授業などについて相談する機会が増えたことで、多面的な児童理解にも役立っています。

2年間の実践の成果を、次年度から本格導入となる教科担任制に生かしていきたいと思っています。



キラリ教科担任制

### 「よい道徳科の授業」を目指して

湯川村立湯川中学校

今年度、道徳教育推進校の指定を受け、研究テーマ「考えを深め、よりよい生き方を指向する生徒の育成～考えを深め合うための指導方法の工夫～」のもと、道徳科の授業を核とした道徳教育を推進してきました。

道徳教育推進教師を中心に、物事を自分事として捉えさせる工夫、議論・対話の場の設定、生徒が学びを振り返り、自己を見つめるためのワークシート等の工夫に焦点を当て、3回の授業研究会での様々な指導助言を生かしながら、道徳科の授業づくりや改善の視点、評価について研修を重ねてきました。

また、11月10日には、域内の小・中・高から多数の参加者を迎え、道徳教育地区別推進協議会を開催しました。コロナ禍に配慮し、リモートで授業を公開しましたが、授業後のグループ協議では、発問の工夫や物事を多面的・多角的に捉えさせるための指導の在り方等について活発な意見交換がなされ、参加者の多様な価値を共有することができました。

「よい道徳科の授業とは、本音が出し合える授業」印象的だった指導助言のひとつです。追究し続けなければならない命題だと感じています。本研究を通して、教職員一人一人が道徳教育に対する意識を高めることができました。御指導や御協力をいただいた皆様に感謝申し上げるとともに、今後も学校全体で道徳教育に注力してまいります。



互いの考えを交流しあう生徒

### 「わくわくする西会津町の未来」を考える

西会津町立西会津中学校

西会津中学校では、社会の一員として必要な「自ら考え行動し問題を解決していける判断力や実行力、自立心」を育てるため、平成15年度から「アントレプレナーシップ(起業家精神)教育」に取り組んできました。情報収集力、分析力、協調性の醸成もねらいとします。これまでは、町教育委員会



課題をどう解決するか議論する様子

が招いた外部講師の指導を受けながら実施していましたが、令和3年度から中学校主導の取組となり、生徒がいっそう主体的にアイデアを創造できるよう、教員や地域の人々がサポートします。

1学年時に目的や基礎を学び、2学年時には興味・関心のカテゴリーで分かれたグループでアイデアを話し合います。その際、地域おこし協力隊員などの町内在住の若者が「メンター」としてそれぞれのグループに付き、助言や議論の軌道修正をするなどし、生徒の自由な発想を後押しします。「推しカフェを作る」などユニークなアイデアも提案され、その実現のために次々浮かぶ課題に、生徒は苦戦しながらも真剣に向き合っていました。そして、3学年時には、地域の協力者と連携し、アイデアを形にすることを目指します。

実施後のアンケートにおいては、「未来から逆算しながら計画やアイデアを考えることができた」「西会津町の見方が変わり、可能性に気付いた」など、成長の実感や郷土愛が育まれた様子も多く見られました。